

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 グループホーム港町 B)

事業所番号	0290100171		
法人名	医療法人 蛭慈会		
事業所名	グループホーム港町		
所在地	青森市港町2丁目15-29		
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人医師による往診の他、日・祝祭日、夜間についても入居者の緊急時にすぐに対応できる体制を整えており、医師と看護師との連携のもと、ターミナルケアを行っている。セラビドックを導入し、認知症高齢者のケアに活用しており、笑顔で話しかけたり、一緒に散歩することで、近隣の方との交流にも一役かっている。入居者のできることは奪わずに、できないことは強要せず、一人ひとりに合わせたケアを提供できるよう、さりげないケアを目指して取り組んでいる。また、町内ねぶたへ入居者と一緒に参加し、地域との交流を深めるためにも継続していきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階		
訪問調査日	平成24年1月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域の中で自分らしくいきいき」という理念に伴い、町内イベントや交流会へ参加し、個々の自分らしさを活かせるような生活支援を行っている。</p>		
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内ねぶた、町内清掃等の地域行事へ積極的に参加し、施設の存在を知っていただくと同時に、地域住民と交流を図れるように努めている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>施設行事の際には地域の方を招き、入居者と実際に関わることで、認知症への理解や関心を持っていただけるようにしている。また、新聞も発行している。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では当施設の実践状況や現状を報告して話し合い、検討内容は書面で記録し、職員会議にて意見交換を行う等、サービス向上に活かしている。</p>		
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>現場や入居者の課題解決のため、市町村へ解決策を相談する等して関係作りに取り組んでいる。また、運営推進会議の報告も確実にしている。</p>		

自己外部		項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての基本的なことを理解しており、入居者の行う行動を否定せず、外に行きたい時には入居者自身が満足出来るまで職員も付き合うような対応を行っている。また、本人の自由を奪う行為は一切行っておらず、夜間は防犯上の理由で玄関の施錠を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の研修に参加して知識を高めている。今後、内部研修を行い、職員全員が高齢者虐待防止法について、正しい知識を身につけるようにする。職員間でお互い注意し合える環境作りを行い、言葉の暴力や身体暴力がないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>一部の職員は権利擁護に関する制度の研修に参加し、知識を高めている。具体的内容の理解は難しいが、他の外部・内部研修を通して職員全員が知識を高め、必要に応じて関係者との連携を図り、活用している。これまで、この制度が必要になった事例はない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時には入居者や家族の希望を聞くことと同時に、書面での説明や質疑にも十分な説明を行い、理解や納得を得た上で話を展開していくよう、心がけている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常の関わりの中で意見を聞き、家族の面会時にはこちらから様子を伝え、意見を聞いている。また、意見箱の設置の他、月一度家族への手紙を各担当者が書き、家族の意見や要望を書き込める欄を設け、返信用封筒と共に郵送している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、施設長や全職員が集まり、会議を行っている。自由に発言が出来る時間もあり、反省や思考案を話し合い、今後の運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修や資格取得を勧め、キャリアアップを可能にし、職員が向上心を持てるよう、やりがいのある職場環境を作っている。また、労働時間の管理や有給休暇がとれるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、全職員で勉強会を行っている。職員が学びたいことを提案してもらい、研修内容とし、これに基づき、事例や実技を含めた研修を行っている。その他、外部の研修へ参加をしてもらい、全職員に内容が伝わるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域環境に恵まれ、地域内には数多くの同業者があり、交流会や勉強会へ参加する機会がある。また、同業者との関わりを持つことで意見交換の場を増やし、サービスの質の向上について、管理者のみならず全職員が意識している。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時に家族から本人の様子や希望を聞いている。また、入居者本人と直接会い、話の中からニーズや身体状況を把握し、入所後に、より適した環境での生活を送れるよう、早い段階から本人との信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所初期に関わらず、家族へのアプローチを積極的に行い、情報交換や連絡を密に行うことで、職員も家族の気持ちを知り、家族が安心できるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人の生活歴や習慣等を家族より教えていただくことで、以前と大きく生活環境が変わらないようにしている。その中で本人や家族の希望、必要と感ずることを見極め、迅速な対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	裁縫や食事作り、食器洗い等の作業を、入居者と職員と一緒に協力し合いながら行うことで、暮らしを共にしている同士の関係を築いている。また、食事も入居者、職員が同じ時間に同じ場所で行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	介護上疑問に思ったことや提案を家族の方に相談し、本人と家族にとって一番良い対応方法を決めるように努めている。その上で、入居者への対応や思いの共有を図っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望により、入所前まで行きつけにしていた美容院への外出支援をしたり、安全を考慮しながら、今までと変わらなく友人との外食を楽しむことが出来るよう、支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した上で、仲の良い人同士と一緒に過ごせる環境や、全入居者が協力して行えるレクリエーションを行うことにより、仲間意識を持ち、お互いに支え合えるような関係作りを行っている。			
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設の利用が終了した場合においても、次の入所予定施設がある場合、先方の職員と連絡を密に取り合い、本人と家族にとって、安心した経過をたどることが出来るように対応している。また、相談を受けた場合にも橋渡しができるように努めている。			

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何を望み、何を不安・不満に思っているか、職員間での情報交換により確認している。また、カンファレンスにて本人の意思を尊重した対応を思考し、困難である場合は家族への相談や協力を得るようにしており、最も適した対応となるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報以外にも、以前サービス利用をしていた担当者から生活歴や生活習慣等の情報を提供していただいている。また、情報は書面にて記録を残すことにより、職員一人ひとりが情報を把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室や共有スペースでどのように過ごしているのかを観察しながら、入居者の能力を把握している。また、申し送りやケース記録にて一日の生活リズムを理解し、状態の変化を即座に把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度、意見交換の場を設け、事前に聞いていた家族や主治医の意見、見解を、情報の一つとしてモニタリングを行っている。また、状況の変化に応じて対応方法を変え、記録に残し、介護計画の作成に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者一人ひとりの記録を毎日行っている。入居者の日々の様子や家族への要望、注意すべき事項、ケアプランに沿った気づき等の記録を基に介護計画を作成し、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や、同業者との情報交換を行っている。交流会の参加については、在宅当時に関わりを持たれていた方々とのレクリエーション等、楽しい時間を共有出来たため、今後も継続していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は医療法人による運営であり、主治医へ入居者の日常の状態報告や定期的往診、対応の素早さにより、安心出来るよう支援している。状況に応じて、他の医療機関の受診も行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の異変については即座に常勤看護師に報告し、相談をしながら、適切な看護や受診を行うことが出来る体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合には病院に足を運び、本人の状態の把握や退院の見込みについて相談をしている。医療機関や家族とは密に連絡を取り合い、本人や家族にとって最も適した今後の方向性を考えることが出来るよう、関係者との関係づくりを行っている。また、主治医による当施設での治療が可能である場合には、退院という選択肢もあることを伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の取り組みはまだ行っていないが、看取りに向け、今の段階から家族との信頼関係の構築に努めている。また、主治医の指示のもと、医療機関からのスムーズな支援が受けられるよう取り組んでいく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に対応する緊急マニュアルや、わかりやすいフローチャートを用意し、緊急時に備えている。応急手当は今後実技訓練により、実際の状況に近い状態で行う予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行う際は、日中職員が多く配置されている時間帯ではなく、夜間想定で行っている。実際の状況に近づける工夫をし、訓練の回数を重ねることで、円滑な避難が出来るように努めている。また、非常食や災害用品を常備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格に合わせた声かけを行い、傷つけないように対応している。また、他の入居者の前と本人の前だけで使用する言葉を使い分け、プライバシーを損ねないように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で思いや希望を傾聴したり、時には嗜好調査等のアンケートを実施し、希望を引き出すことが出来るようにしている。また、出来る限り、選択肢から意見を聞くのではなく、本人の意思を引き出せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やレクリエーション等、決まった時間に行っていることはあるが、拒否や違うことを希望する入居者にはそちらを優先して行ってもらっている。あくまでも本人の状態や希望に合わせ、入居者の自分らしさを優先し、サービス提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の意思で身だしなみを決められない方については、本人が普段から愛用している、季節に合った服を職員と一緒に選び、対応している。自分で出来る方については、自分で着たい服やアクセサリー類を自由に身につけてもらうように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関しては調理や後片付けを職員と一緒にしてもらっており、食事も入居者と職員と一緒にいただくようにしている。また、入居者が調理を行うことにより、食事の際の話題が広がり、楽しい時間を過ごしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一週間ずつ献立作成をし、栄養バランスのとれた材料や調理内容を決め、一人ひとりに合わせ食事量を調整している。また、水分摂取については、毎食時以外にもティータイムや入浴後等に回数を多く提供し、摂取量が自然と増えるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後口腔ケアをし、自力で行える方は見守りのもとで行っている。その際、口の中や義歯の状態を確認し、必要に応じて歯科医への相談をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンの把握や、介助の必要な方にはトイレ誘導を行っている。また、本人の状態に合わせた対応をしているが、出来るだけおむつの使用を控え、トイレでの排泄を目標に掲げている。また、汚染時、定時での清拭を行い、清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを観察し、便秘にならないよう水分補給を十分に行っている。また、散歩や体操等の運動の他、食事には食物繊維や海藻類を多く取り入れ、出来るだけ未然に便秘を防ぐような取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日行っているが、個々の入浴日は決まっていない。そのため、何らかの理由で入浴を拒否する場合は、日を改めて行っている。順番も特に決めておらず、その日の入居者の気分によって行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重し、他者との交流だけに力を入れた支援をするのではなく、居室での個人的な活動や睡眠が出来るよう、生活リズムを損ねないように配慮し、支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬されている薬情報のファイルを作成し、効果効能や注意事項がすぐに確認出来るよう、常備している。また、臨時薬や追加処方になった薬は服薬チェック表に記載し、飲み忘れや誤薬がないよう、状態変化について詳細に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の職歴や趣味を活かし、他の入居者や職員の先頭に立ち、教えていただきながら取り組んでいる。天気の良い日等、希望が聞かれた時には外へ散歩に行ったり、菜園の手入れや収穫をして、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	余暇時間には外に散歩やドライブに出かけたり、希望が聞かれる時には買い物や自宅に行く等の支援をしている。自宅に行く場合は家族へ相談をして、協力し合っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理をしている入居者は少ないが、外出時や買い物の会計時に本人にお金を持っていただき、支払いをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも入居者が話したい相手に電話が出来るようにしている。プライバシー保護のため、居室で、誰にも聞かれないよう電話をすることも可能である。また、手紙のやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は24時間暖房であり、一日中適温が保たれるようになっている。気温が一定である分、季節感を失わないように装飾品を用意する等、工夫をしている。また、二階には天井窓から光が入り、不自然に感じない程度であれば、日中は太陽光で過ごすことも多く、一日の生活リズムが保てるように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるホールには食事が主となる大きなテーブル席の他、テレビを見ながらくつろげるソファ、足を伸ばして休める畳の小上がりといった3つのスペースがあり、入居者は好きな場所で一人で過ごしたり、気の合う入居者と時間を共有しながら、思い思いに過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には、入所前に使用した使い慣れた品々や思い出の品を持参して、使いやすいように設置している。また、各居室にはトイレや洗面所があり、最低限のことは居室内にいながら行えるため、自分だけのプライベート空間となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや廊下、トイレに至る生活空間全てに手すりを設置している。車いす使用にも不便がないよう、洗面所の高さを考慮した作りとなっており、自立支援を目標とした取り組みを行っている。また、リフト浴もあり、起立困難な方が安全に入浴できるように配慮している。		